

1 研究主題 「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図る教育の充実に向けて」

2 研究の具体

本県では、平成22年度より、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続に向けた連携の推進を図るために、県内の小学校教諭が近隣の幼稚園等において、1年間幼児期の教育に携わり理解を深めることを目的とした「幼児教育長期研修」を実施している。

【研修内容】

- ①幼児期と児童期の教育課程・指導方法の違い、子どもの発達や学びの現状等を理解する。
- ②コーディネーター役となり、幼児と児童の交流活動及び教員等間の研修の計画を立て、実践につなぐ。
- ③接続期（5歳児後期・1年生入学期）の指導の工夫及び発達や学びをつなぐ教育課程の編成や指導計画の作成を行う。
- ④家庭（保護者）との連携のために必要な関係の構築を図る。

なお、1年間の研修を終えた派遣教員は、翌年、小学校に戻ってからも、引き続き実践的研究を行っている。

また、8月に実施した『幼・保・こ・小理解研修会』では、「幼児教育と小学校教育の円滑な接続について考える～幼児期から小学校入学までの具体的な子どもの姿と幼児教育長期研修教員の実践から～」のテーマのもと、今年度派遣教員、昨年度派遣教員による実践発表が行われた。実践発表をもとに参加者全員で協議を行い、「学びをつなぐ」ことについて、考えを深めることができた。

昨年度派遣教員による実践発表

幼児教育での学びを生かしたスタートカリキュラムの構築と実践

多度津町立多度津小学校 大西 佐季

○遊びや生活を通しての学び～幼児や保育者の姿から～

幼児が、「こうしたらもっとおもしろいのでは？」という思いから、友達と考えを出し合いながら遊びをつくり上げている。自分たちで考え、工夫し、遊びを進めようとする主体的・対話的な姿は、小学校の学習につながる、とても大切な学びの姿勢である。

また、生活の中で、保育者は実際に子どもたちに考えさせるだけでなく、失敗しても何度も考える機会を保障している。幼児が生活に結び付いた学びを得るための、大切な支えとなっている。

○スタートカリキュラムの工夫～幼児教育での学びを生かして～

幼稚園での生活リズムから少しずつ小学校の生活に慣れていけるようにすること、安心感をもって過ごせるような一日の流れを考えることなどを大切にしたい。学習活動では、子どもの思いや願いに沿って自然に学びが始まり、それが教科等の学習につながるよう工夫した。また、教科の学習が本格的に始まってからも、幼児教育とのつながりを意識して授業づくりを行った。

<実践例>

- ・『がっこうたんけんにいこう（生・体）』
～同じ色のカエルを探そう（下校グループ分け）～
- ・『うんどうじょうたんけんにいこう（生・体）』～ピンゴカードに挑戦!!～
- ・『かずとすうじ（算）』※幼児教育とのつながりを意識して

○子どもの実態に合わせた環境づくり～子どもと一緒に考えた教室環境～

4月中は、朝の準備を終えてから好きな遊びをする時間を設けた。4月下旬、この時間にどんな遊びをしたいかを子どもたちに尋ねると、たくさんの意見が出てきた。「こまコーナー」「お絵かきコーナー」など、5つのコーナーが生まれ、生き生きと看板作りを行う姿や、各コーナーで友達との交流を深めたり自分のしたいことに黙々と取り組んだりする姿が見られた。土台となる幼児期の経験が生かせるような環境づくりを大切にしたい。

スタートカリキュラムの工夫

The diagram illustrates a weekly lesson plan with the following callouts:

- 週ごとのめあて** (Weekly goal)
- イラストを入れ 明るく** (Add illustrations to brighten up)
- 生活科を中心とした 含料的な指導内容に** (Content centered on life studies with integrative guidance)
- その時間に 何をやるのか 細かく記す** (Record in detail what to do in that time)
- 保護者に向けて** (Towards guardians)
- さらさらたいめは 継続** (Smoothly continue)
- 朝の活動と 1時間目を 繋げて** (Connect morning activities and the first hour)
- 主体的に取り 組める活動** (Activities that can be done proactively)
- 備りの準備時間を 十分確保** (Ensure sufficient preparation time)